

## 豊田市内の丘陵地における植生遷移模式図

森林の基本的な仕組み

### 植 生 遷 移

植生遷移は、裸地から極相林が復活するまでの森林の一生です。

その変化は、各植物が生きていくためにどのくらいの日照を必要

とするかと土壌の豊かさに大きく左右されます。

- ① 森林を完全に裸地化すると、まず風散布型種子の草本植物が侵入する。
- ② その中に、アカマツ・アカメガシワやモンゴリナラなどの先駆植物的性格の樹木が侵入し、やがてアカマツ林を形成する。
- ③ アカマツ林となって土壌が安定すると、コナラ・アベマキやヤマザクラなどの肥料分を好む樹木が侵入し、混交林となる。
- ④ 日陰に弱いアカマツは徐々に衰退し、やがて、コナラ-アベマキ林となる。その頃には、日陰に耐えられるアラカシ・シラカシなどのカシ類とツブラジイの実生苗が侵入する。
- ⑤ 常緑性ブナ科樹木と夏緑性ブナ科樹木の混交林となり、やがて、より日陰に強い常緑樹林に替わり、極相林に達する。この地域の極相林では、一般的にツブラジイが森の中心を占め、周辺にカシ類が生育する事例が多く見られる。

